

地球惑星科学基礎 III  
&  
地球惑星科学基礎 III 演習

岩山隆寛

2009 年度版



# 目次

ガイダンス	v
0.1 地球惑星科学基礎 III	v
0.2 合否判断	vii
0.3 地球惑星科学基礎 III 演習	vii
0.4 合否判断	vii
0.5 連絡先	viii
0.6 その他	viii
第 1 章 定数係数の 2 階線形常微分方程式の解法	1
1.1 はじめに	1
1.2 言葉の定義 (1)	2
1.3 言葉の定義 (2)	2
1.4 定数係数の 2 階線形常微分方程式の解法 (1)	4
1.5 定数係数の 2 階線形常微分方程式の解法 (2)	7
1.6 非斉次型の微分方程式の解法	8
第 2 章 Fourier 級数	13
2.1 周期関数	13
2.2 Fourier 級数	14
2.3 Fourier 係数の導出	14
2.4 Fourier 級数の例	16
2.5 Fourier 級数展開に関するいくつかの注意	18
2.6 Parseval の恒等式	21
2.7 Fourier 級数の収束性	21
第 3 章 Fourier 級数の複素表現 (複素 Fourier 級数)	25
3.1 実 Fourier 級数からの導出	25

3.2	いくつかの注意 . . . . .	27
3.3	複素 Fourier 級数の例 . . . . .	30
3.4	Fourier 級数の応用：関数を近似する . . . . .	30
第 4 章	Fourier 変換と Fourier 積分	33
4.1	復習 . . . . .	33
4.2	Fourier 変換 . . . . .	34
4.3	Fourier 積分 . . . . .	37
4.4	まとめ . . . . .	39
第 5 章	Fourier 級数展開 (Fourier 変換) の幾何学的意味 ~ 直交関数展開 ~	41
5.1	ベクトルの復習 . . . . .	41
5.2	Fourier 級数展開のココロ . . . . .	43
5.3	まとめ . . . . .	46
第 6 章	拡散方程式	49
6.1	拡散方程式の導出 . . . . .	49
6.2	拡散方程式の解法 . . . . .	51
6.3	Gauss 積分 . . . . .	55
6.4	複素関数の積分 . . . . .	56
第 7 章	和の規約	59
7.1	表記 . . . . .	59
7.2	和の規約 . . . . .	60
7.3	Kronecker のデルタ . . . . .	61
7.4	Eddington のイプシロン . . . . .	62
7.5	和の規約を使ったベクトル解析の公式の証明の例 . . . . .	63
第 8 章	熱力学の数学	65
8.1	状態方程式 . . . . .	65
8.2	Jacobian . . . . .	67
8.3	Legendre 変換 . . . . .	68

# ガイダンス

## 0.1 地球惑星科学基礎 III

### 0.1.1 講義内容

本講義の目的は、地球惑星科学の勉強や研究において必要な数学的手法について解説をすることである。同じ目的の講義として、2 回生を対象に前期に開講されている地球惑星化学基礎 I および地球惑星科学基礎 I 演習がある。本講義はその後行科目である。

本講義ではまず、定数係数の 2 階線形常微分方程式の解法 について説明する。この型の微分方程式は天体の運動などを始めとして地球惑星科学を学ぶ際に頻繁にお目にかかるものである。また地球惑星科学の諸現象は偏微分方程式の形にかかれることが多い。偏微分方程式を解くためには、変数分離法を用いたり直交関数展開（本講義の主題の一つである Fourier 級数・Fourier 変換を一般化した概念）などを行うことにより偏微分方程式を常微分方程式に書き直し、それを解くという方法が一般的である。したがって偏微分方程式を解く場合にも、常微分方程式の解法を知っておく必要がある。次に、偏微分方程式の解法やデータ解析に用いられる Fourier 級数, Fourier 変換, およびそれらに関連するテーマ について詳述する。また、和の規約 もしくは Einstein's notation と呼ばれる表記法も紹介する。この方法は気象学や地震学（およびその background となる流体力学、弾性体力学）で用いられるものである。和の規約を用いることの利点は、これを用いると、ベクトル解析で現れる複雑な計算がたちどころに行えることである。さらにスカラーでもベクトルでもない量（テンソル量）の導入に必要不可欠なものである。時間があれば、熱力学で必要とされる数学 についても述べる予定である。

本講義の内容は、理論的研究、実験的研究といった研究手法に係わらず、将来物理系の研究分野（地球および惑星大気科学、海洋・大陸ダイナミクス、地震学、太陽系科学、宇宙物理学、非線形科学の各教育研究分野）で研究を行う上で必要不可欠なものであり、常識として知っておく必要がある。また、本講義で取り扱う内容は「基礎科目」の一部として各大学大学院の入試において出題される。

## 0.1.2 参考書

本講義に関連する内容を含んだ参考書をリストアップしておく。

- 程度は高いが、大学生としては是非一度は手にとって眺めて欲しい書籍。
  - R. Courant and D. Hilbert: Method of Mathematical Physics, vol. I. Wiley, 1953.(Fourier 級数の話は chapter II. 邦訳: 数理物理学の方法, 東京図書出版)
  - A. Sommerfeld: Partial Differential Equation. Academic Press, 1949. (Fourier 級数の話は chapter I, 邦訳: 物理数学, 講談社)
  - 高木貞治: 解析概論. 岩波書店, 1983, (Fourier 級数の話は第 6 章).
  - 寺澤寛一: 自然科学のための数学概論 [増訂版], 岩波書店, 1983.
  - ポントリャーギン: 常微分方程式 (共立出版)
- 初学者向け参考書
  - 和達三樹: 物理のための数学, 岩波書店.
  - 小暮陽三: なっとくするフーリエ変換, 講談社.
- 一般的程度の参考書 (微分方程式)
  - 矢野健太郎: 微分方程式 (裳華房)
  - 矢野健太郎: 大学演習 微分方程式 (裳華房)

上記の 2 冊は、私が大学生のときに物理数学 I (1 年次, 通年開講) 担当の先生がテキストとして指定した本である。(物理数学のテキストは、この本以外に安達忠次著: ベクトル解析 (培風館) であった.)
- 一般的程度の参考書 (Fourier-Laplace 解析, 複素関数論)
  - 木村英紀, Fourier-Laplace 解析. 岩波講座「応用数学」, 岩波書店, 1999 年, 第 1 章.
  - 矢野健太郎, 石原繁, 解析学概論 (新版). 裳華房, 1982 年, 第 IV 部.

上記の教科書は、私が大学生のときに物理数学 II (2 年次, 通年開講) 担当の先生がテキストとして指定した本である.

  - M. R. Spiegel, Fourier Analysis with application to boundary value problems. Schaum's outline series, McGraw-Hill, 1974, 191 pp.
- 一般的程度の参考書 (物理数学全般)
  - マージナウ, マーフィ共著, 佐藤次彦, 国宗真 共訳: 物理と化学のための数学 I, II (共立出版)

上記の 2 冊は、私が大学生時代に愛読した物理数学の本である. 熱力学の数学から、微分方程式, 特殊関数, テンソル解析, 量子力学や統計力学の数学,

数値計算法まで収録した大著である。

- スペクトル解析の参考書
  - 日野幹雄: スペクトル解析, 朝倉書店, 1977.
  - 石岡圭一, 1998: FFT – 高速アルゴリズムの発見 –. 数学セミナー, **37** (1998年12月号), 日本評論社, pp. 34 – 39.

## 0.2 合否判断

- 授業の合否判断は, 試験の点 (演習の時間に黒板で解いた問題数に応じて点数を加味する) で行う. 出席点は加味しない (出席はとらない.)

注意: 基礎 III の講義の内容は基礎 III 演習で出題される問題を解くことにより, 理解が深まるので, 演習の授業を履修しない人でも, 演習で出題される問題を解いておくことが望ましい.

## 0.3 地球惑星科学基礎 III 演習

### 0.3.1 方針

- 地球惑星科学基礎 III で取り扱ったテーマに関連する演習問題を解くことによって, 講義への理解を深める. とくに数式を取り扱う能力を高める.
- 演習問題は, 適当な分量の問題を (予定では) 隔週毎に用意する.
- 受講生は配られた演習問題をその場で, もしくは翌週までに解いてくる. 希望者が黒板に問題, 及び模範解答を示し, 模範解答の解説をする. 教員は必要に応じてそれに対して補足説明を行う. これは人前で喋るプレゼンテーションの練習になる. なお, 解答者を教員側から指名することは行わない. あくまでも学生が自主的に黒板に出て模範解答を示し, 解説を行うこと. 演習の授業は学生が主体となって作って行くべきものと考えている.

## 0.4 合否判断

- 授業の合否判断は, 講義の際に行ったテストの点数に黒板で解いた問題数に応じて点数を加味し判断する. 出席点は加味しない (出席はとらない.)

## 0.5 連絡先

質問は授業時間に限らずいつでも受け付ける．連絡先は以下のとおりである．

- 電子メール: [iwayama@kobe-u.ac.jp](mailto:iwayama@kobe-u.ac.jp); 居室: 自然科学研究科 3 号館西棟 502 号室

本講義の内容をテキスト形式にまとめた資料（講義ノート）を岩山のホームページ

[http://www2.kobe-u.ac.jp/~iwayama/teach/teach\\_09.html](http://www2.kobe-u.ac.jp/~iwayama/teach/teach_09.html)

からダウンロードできるようにしておく．講義ノートは順次上記ページにアップロードする予定である．なお，昨年度の講義のノートは

[http://www2.kobe-u.ac.jp/~iwayama/teach/teach\\_08.html](http://www2.kobe-u.ac.jp/~iwayama/teach/teach_08.html)

に掲載してある．

## 0.6 その他

毎学期行っている授業評価アンケートによると，本講義の改善点としては

- i) 板書の量が多いので，プリントなどを有効に利用して板書の量を減らして欲しい．
- ii) 板書の速さが速いので，もっとゆっくり書いて欲しい
- iii) 板書の速さが遅いので，もっと速くしてもいいのではないか．
- iv) 板書の文字が小さくて見えないときがある．
- v) 演習問題の模範解答を配って欲しい．

といったものがあげられている．i) については板書の量を減らすと分かり易さを犠牲にすることになりかねないので，板書の量は減らしたくないと思っている．むしろ，講義ノートなどを参考に各自工夫して板書を写すようにして欲しい．ii), iii) については相反する意見なのでどう対応していいか困ります．速いと感じる人は，やはり講義ノートを参考に板書を写す量を減らして講義についてきて欲しい．遅いと感じる人は，講義よりもさらに高度な内容を各自で自習するなど，上のレベルを目指して欲しい．iv) については気をつけるつもりであるが，それでも見にくいときには，講義の進行にかかわらず遠慮なく指摘して欲しい．v) については，解答があるとそれで安心してしまい自力で問題を解かなくなるでしょう．自力で問題を解くための教育的な配慮から，演習問題の解答を公開していない．もし自分で解いた解答を見て欲しい場合には遠慮なく申し出て欲しい．（そのような積極的な授業への参加を大歓迎します．）